

# 筑波大学比較・理論文学会活動報告

## 平成 10 年度比較・理論文学会 3 月大会

1999 年 3 月 17 日(水) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

研究発表

・「洋語学習と言文一致」

岡田和子（筑波大学外国語センター）

・「日露戦争期にいたる〈朝鮮〉情報群と文学表象」

中根隆行（文芸・言語研究科文学専攻 4 年次）

・「野々宮の恋愛はなぜ実らなかったのか

——「ペーコンの二十三頁」から読み解く〈恋愛〉と〈学問〉——」

呉 俊永（文芸・言語研究科文学専攻 5 年次）

## 平成 11 年度比較・理論文学会 6 月例会

1999 年 6 月 28 日(月) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

研究発表

・「〈自己〉を語る枠組み」

日比嘉高（文芸・言語研究科文学専攻 5 年次）

・「谷崎潤一郎の『人面疽』論」

張 栄順（文芸・言語研究科文学専攻 4 年次）

・「太宰治の『女性』における女性一人称小説をめぐって」

李 顯周（文芸・言語研究科文学専攻 4 年次）

## 平成 11 年度文学専攻中間・博士論文構想発表会

1999 年 7 月 6 日(火) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

一部 中間論文構想発表

・後藤滋昭「アナキストたちだって、倫理と葛藤するときはある。

——トム・ロビンズ『カウガールたちだって、ブルーな気分になるときはある』  
における共同体と「個人」の問題——」

・外山健二「ポール・ボウルズとモロッコの形態学」

・福井崇史 Deciphering the Race: Identity, Populism and Republicanism in Caesar's Column

二部 課程博士論文構想発表

・波瀲 剛「昭和期の文芸思潮と日本人作家の越境——帰国者たちの東アジア——」

- ・鄭 炳浩「明治初期における文芸論研究—文芸論の誕生と実用主義の再編成—」
- ・中根隆行「日本近代の〈朝鮮〉表象とその知の言説編成史の文化地政学—」

#### 平成 11 年度文学専攻修士論文中間発表会

1999 年 10 月 27 日(水) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

- ・後藤滋昭「ポストモダン・メタフィクション以降の倫理的寓話—トム・ロビンズ『カウガールたちだって、ブルーな気分になるときはある』に描かれた共同体と「個人」の問題」
- ・外山健二「逸脱するポール・ボウルズ—移動とグローバリゼーションの展開」
- ・福井崇史「Deciphering the Race: Identity, Populism and Republicanism in Caesar's Column」

#### 平成 11 年度比較・理論文学 12 月例会

1999 年 12 月 20 日(月) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

研究発表

- ・「〈故郷〉を〈創造〉する〈引揚者〉—安部公房とシュルレアリスム—」  
波瀾 剛 (文芸・言語研究科文学専攻 5 年次)
- ・「太宰治の『皮膚と心』と「女生徒」論」  
李 顯周 (文芸・言語研究科文学専攻 4 年次)
- ・「ブッカー賞という文化装置—1980 年代の英国における文学をめぐる言説—」  
清水知子 (文芸・言語研究科文学専攻 5 年次)
- ・「人種と翻訳—19 世紀末日本の人種地図と文化ヒエラルキー—」  
斎藤 愛 (文芸・言語研究科文学専攻 5 年次)

#### 特別講演

- ・「中世地中海世界における西洋古典文献の伝承と受容  
—ホメロスとウェルギリウスを中心に—」  
秋山 学 (文芸・言語学系講師)

#### 平成 11 年度文学専攻中間論文公開発表会

2000 年 2 月 2 日(水) 筑波大学人文・社会学系棟 A501

- ・福井崇史「Deciphering the Race: Identity, Populism and Republicanism in Caesar's Column」
- ・鷲谷 花「児童映像文化の展開」
- ・外山健二「ポール・ボウルズの〈陣地戦〉—移動とグローバリゼーションの展開」